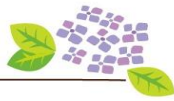


やすき通信



訪問看護ステーション穩

2021年 Vol.6



食べる喜びをもう一度



年末までは杖歩行ができていたSさん。体調を崩したことがきっかけで食事が食べられなくなりました。訪問看護の依頼があった時にはすでに3週間ほど食事をしておらず、高度脱水と廃用状態に陥っていました。

初回訪問時、口の中を見てみると乾燥した汚染物が層を成しており、食事が食べられる状態ではありませんでした。

丁寧に口腔ケアをし、汚染物を除去！食べられる口にしてから嚥下評価！

口腔の動きは拙劣ながらも、咽頭期（飲み込み）は保たれている状態でした。

補助的に点滴をしながら、段階的に食事量と回数を増やしていきました。同時に家族の方にも食事介助方法や口腔ケア、栄養指導を行いました。

介入当初は布団を使用されていたため、家族が安全な食事介助ができるように電動ベッドとオーバーテーブルを導入し、居室環境の調整も行いました。



現在は全介助ではありますが、3食とも食事を摂ることができています。

今後は自分で食べることができるよう介入を始めています(^o^)

看護師・日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士：藤中 雪子

進行性核上性麻痺

○主な症状

目が動きにくい、パーキンソン症状（転びやすい）、認知機能障害、嚥下・自律神経障害

○こういった対策が必要？

① 転倒対策

※危険察知能力が低下しやすく、転倒の危険性が高まる

環境整理（手すり、ベッドを低くする、段差解消など）

拘縮や廃用症候群を予防

（バランス訓練、筋力トレーニング、頸部・体幹可動性の向上）



② 食事対策

食事が見やすいように（特に真下の方は見えない）、食器や用具の工夫

トロミをつける

1口の食事量を少なくする



③ 認知障害

・思考が緩慢になり返答に時間がかかる

・無反応になりやすいが理解はしている

時間をかけてゆっくりとコミュニケーションをとる

※進行性核上性麻痺には様々な病型があり、経過や予後が異なります。

症状や経過によってどのような対策をとればいいのか判断していきましょう。

OT 船原 千寛

作ってみました!

まだまだマスクが手放せない日々が続いています。そんな時、休憩中にマスクストラップがあったらいいな♪という声があり、調べてみると自分でも出来そう!

早速、チェーンやビーズ、金具を繋げて作ってみました。

普段のマスク姿が少し華やかになり、食事中など置く場所にも困らず清潔です!

PT 高宮 舞



管理者こだまの一言

あっという間に春が過ぎ去り、今年は一足早く梅雨の時期を迎えましたね。この時期は肌寒い日や、蒸し暑い日など、気温・湿度ともに変化が大きく体調を崩しやすくなります。

気付かないうちに隠れ脱水という事もよくみられます。日頃と体調が違ふと感じた時は早めの対処を心掛けましょう。

管理者：児玉 恵美子

医療法人優誠会 訪問看護ステーション穂(やすぎ)

〒811-1314 福岡市南区的場2丁目37-2

TEL: 092-589-3011 FAX: 092-589-3021